



七月(大) 文月

井宿

七月七日小暑の節より
月命己未九紫火星の月
暗剣殺南の方

旧五月小
旧六月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	共宿	下段	月入	月出	満潮	干潮
1日	日	きのえ うま	六白	社会を明るくする運動、全国安全週間、国民安全の日、一般万倍日、銀行の日、天竺や祭、一般万倍日、旧五月小	十八	佛滅	たつ	星	よろづよし	4.29	19.01	4.29	19.01
2日	月	きのひつじ	五黄	半夏生六時四九分、博多祇園山笠(1日〜15日)	十九	大安	のぞく	張	大まう	4.29	19.01	21.44	7.47
3日	火	ひのえ さる	四緑		廿	赤口	みつ	翼	神よし	4.29	19.01	21.44	7.47
4日	水	ひのと	三碧	米国独立記念日、不成就日	廿一	先勝	たいら	軫	神よし	4.30	19.01	22.49	9.38
5日	木	つちのえいぬ	二黒	栄西禪師忌	廿二	友引	さだん	角		4.30	19.00	23.20	10.35
6日	金	つちのとみ	一白	○下弦一六時五一分、東京入谷朝顔市(8日迄)	廿三	先負	とる	亢	ちう日	4.31	19.00	23.52	11.33
7日	土	かえ	ね九紫	小暑一二時四二分、七夕、奈良吉野蛙とび、成田不動尊祇園会	廿四	佛滅	とる	氐	きこ	4.31	19.00	23.52	11.33
8日	日	かとうし	八白		廿五	大安	やぶる	房	十し	4.32	19.00	19.00	19.00
9日	月	みづのえとら	七赤	東京浅草観音ほおずき市、鴨外忌	廿六	赤口	あやぶ	心	大まう	4.33	19.00	19.00	19.00
10日	火	みづのと	六白	東京浅草観音四万六千日	廿七	先勝	なる	尾	母倉	4.33	18.59	15.47	14.40
11日	水	きのえ たつ	五黄		廿八	友引	おさん	箕	大まう	4.34	18.59	16.55	15.47
12日	木	きのと	四緑	福島伊佐須美田植祭、不成就日、大阪生国魂神社夏祭、草市	廿九	先負	ひらく	斗	大まう	4.34	18.59	17.14	16.27
13日	金	ひのえ うま	三碧	○朔一時四八分、ほん迎え火、三隣七、東京靖国神社みたま祭、一粒万倍日、佐原の大祭(15日迄)、旧六月小	朔	赤口	とる	牛	●	4.35	18.58	18.01	16.55
14日	土	ひのとつじ	二黒	熊野那智大社扇祭	二	先勝	たつ	女	くま日	4.35	18.58	19.03	17.58

月の初めにはまだ梅雨期が残っていることもあるが、本格的な夏型の天候、気候になろう。ただし最近是不順なことが多く、冷害や集中豪雨に見舞われることもある。

【冠】七日は「七夕」(たなばた)五節句の一つ「棚機」の日である。織姫の名にちなんで、昔は女子の裁縫の上達を願ったものであるが、最近では技芸はもとより、書道、音楽、学習全般などになった。色紙や短冊などに願いを書いたり、紙の星形をつるして庭に飾る。近ごろでは町ぐるみ、都市ぐるみのお祭り行事になっているところもある。七夕まつりに仙台や平塚の「七夕まつり」は全国的に有名である。

【葬】死者を送って最初のお盆を特に「新盆」といい、戸外に葉つきの青竹を四隅に立て、上のほうをわら縄で結び、盆花(栴檀の別称)などをかけ、白張りの提灯

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	共宿	下段	月入	月出	満潮	干潮
15日	日	つちのえさる	一白	ほん、山形出羽三山花祭、京都松尾大社御田祭	三	友引	のぞく	虚	神よし	4.36	18.57	4.37	18.57
16日	月	つちのと	九紫	○海の日、ほん送り火、塩竈みなと祭、若ヶ崎寒川神社土降祭、やぶ入り、養日、えんま詣り、国土交通デー、一粒万倍日	四	先負	みつ	危	百事よし	4.37	18.57	4.37	18.57
17日	火	かえいぬ	八白	京都八坂神社祇園祭、初伏	五	佛滅	たいら	室	大まう	4.38	18.56	4.38	18.56
18日	水	かのと	七赤	不成就日	六	大安	さだん	壁	大まう	4.38	18.56	4.38	18.56
19日	木	みづのえね	六白	八せん始め	七	赤口	とる	奎	天おん	4.39	18.55	4.39	18.55
20日	金	みづのと	五黄	土用二時三十分、上弦四時五二分、土用の丑、山口祇園祭(27日迄)、小倉祇園太鼓(22日迄)	八	先勝	やぶる	婁	十し	4.40	18.55	4.40	18.55
21日	土	きのえとら	四緑	勤労青少年の日	九	友引	あやぶ	胃	母倉	4.40	18.54	4.40	18.54
22日	日	きのと	三碧	敦賀気比神宮総祭、熊谷うちわ祭	十	先負	なる	昴	神よし	4.41	18.53	4.41	18.53
23日	月	ひのえ たつ	二黒	大暑六時〇〇分、宇和島和霊祭	十一	佛滅	おさん	畢	大まう	4.42	18.53	4.42	18.53
24日	火	ひのと	一白	地蔵ぼん、河童忌、大田原大田山地蔵尊夏大祭	十二	大安	ひらく	觜	くま日	4.43	18.52	4.42	18.53
25日	水	つちのえさる	九紫	大阪天満天神祭、徳島天神祭、三隣七、一粒万倍日	十三	赤口	とる	参	●	4.43	18.51	4.43	18.51
26日	木	つちのえいぬ	八白	不成就日	十四	先勝	たつ	井	大まう	4.44	18.51	4.44	18.51
27日	金	かえさる	七赤	神奈川大山阿夫利神社夏季大祭、庚申、宇佐神宮夏越大祭(29日迄)、中伏	十五	友引	のぞく	鬼	大まう	4.45	18.50	4.45	18.50
28日	土	かのと	六白	○望五時二〇分、相馬野馬追大祭(30日迄)、和歌山粉河祭(29日迄)、一粒万倍日	十六	先負	みつ	柳	神よし	4.46	18.49	4.46	18.49
29日	日	みづのえいぬ	五黄	広島厳島神社管絃祭	十七	佛滅	たいら	星	大くわ	4.46	18.48	4.46	18.48
30日	月	みづのと	四緑	大阪住吉祭(8月1日迄)、八せん終り	十八	大安	さだん	張	ちう日	4.47	18.47	4.47	18.47
31日	火	きのえ	ね三碧	芦ノ湖湖祭、堺大魚夜市、京都愛宕千日詣り、甲子	十九	赤口	とる	翼	天おん	4.48	18.47	4.48	18.47

をつるす本格的な行事を行うところもある。お盆は、盂蘭盆の略で昔から家単位の大きな行事になっていた。地方により多少祀り方は違いますが、精霊棚を作りお位牌を安置し、野菜、果物、ノーム、団子などを供えるのが普通である。仏壇に簞簞(すし)を敷いて代用することもあり、きゅうりやなすで、牛、馬の形を作つて供えるところもある。十三日の夕刻、迎え火といつて麻幹(おがら)をたいて仏を迎え、十五日に僧侶に饗経してもらい、十六日に送り火をたいて冥界(めいかい)に送る。お盆の供え物は川や海に流すのが普通で、小さな舟を作り、それを灯籠を載せて流す風習も各地に残っている。

【祭】中元の習慣は中国に発する。正月十五日を上元、七月十五日を中元、十月十五日を下元、合わせて三元とし、金品をささげて贖罪(しよくざい)をする日といひ伝えられており、これがわが国で形が変わり、縁故者や目上、恩人に贈り物をし、感謝の心を表すものとなったのである。